

中学校生徒の教師・学校に対する意識

神 田 嘉 延

鹿 児 島 大 学 教 育 学 部 教 育 実 践 研 究 紀 要

第 1 巻 抜 刷

1991年11月

中学校生徒の教師・学校に対する意識

－ Research on the Consciousness of Teacher and School
in Junior high school students －

神 田 嘉 延*
(Yoshinobu KANDA)

キーワード：信頼関係、嫌いな教師、やさしい教師、人間像、塾

はじめに

本稿は、鹿児島市新興住宅地域における中学校生徒の教師に対する意識調査の結果分析である。調査は、90年10月に2年生を対象にして実施したものである。調査の方法は、担任をとおしてホームルームの時間をさいて行った。調査の有効サンプルは、487名である。本調査結果については、中学校教師と父母に内容を提示して、調査の分析結果を深めている過程である。

アンケート調査は、極めて表面的な生徒の意識であり、この結果のみによって、生徒と教師の意識関係を結論づけようとするのは、問題の本質を見失う危険性がある。調査の結果は、直接担当している当該学校の教師と父母によって、具体的実践事例、具体的生活をとおして、また、生徒自身の面接、観察等によって、総合的に、生徒と教師の関係をみていかねばならない。従って、本稿のアンケート調査の結果分析は、ひとつの表面的な傾向的見方であることを断わっておく。

ところで、中学生の教師との意識の関係は、中学校をとおしていることから、調査のむづかしさがともなったが、多くは選択枝のアンケートではなく、自由記述で書いてもらった。

調査のねらいは、先生と生徒の信頼関係がどのようにつくられているのかということと生徒が求めている人間像をさぐることを目的にした。

また、学校の教師にとって、生徒との関係において、授業は大きな位置を占めているが、学校と塾とではどちらが勉強になっているか等、子どもにとっての学校と塾との「学力形成」の意味づけを明かにすることをねらいとしている。

そして、先生と教師の信用関係を探求する目的

で、中学校の生徒からみて教師とは何であるのか、また、学校は何であるのかということをつまにする。このことから、学校の校則についての意見、学校の教師について、日頃思っていることなどを記述してもらったのである。

表（0－1） 兄弟・姉妹数 百分比

無回答	1人	2人	3人	4人	5人	6人以上	計
1.2	6.2	48.5	35.7	5.7	1.6	1.0	100.0

表（0－2） 祖父母との同居 百分比

無回答	祖父母と同居	祖父のみ	祖母のみ	祖父母と同居なし	祖父母死亡	計
1.4	6.8	2.1	8.6	75.8	5.3	100.0

アンケート対象の生徒の家庭状況は、次に示すとおりである。兄弟・姉妹は、「1人」6.2%、「2人」48.5%、「3人」35.7%、「4人」5.7%、「5人以上」2.6%となっている。兄弟・姉妹数では、2人－3人層が8割以上になり、1人の割合

表－（0－3）父の仕事 百分比

農林漁業	公務員農協	会社員主として体を動かして	会社員商社・金融事務など	専門的
3.7	17.7	23.8	23.6	5.7

商工自営	その他	仕事していない	父はいない	計
13.1	4.3	0.4	4.7	100.0

無回答 2.9

* 鹿児島大学教育学部教育学科

は極めて少ない。家庭での兄弟・姉妹の人間関係をもてる子どもが大多数であり、1人の問題は極めて少ない。祖父母と同居していない夫婦家族の形態が75.8%と4分の3を占めている。

父親の職業は、「農林水産業」3.7%、「公務員・農協職員」17.7%、「会社員（主に工場、建設、運輸などで働く）」23.8%、「会社員（主に商社、金融、その他事務で働く）」23.6%、「専門的技術者・専門的資格を有する仕事（教師・医師を含む）」5.7%「商工自営業」13.1%、「その他」4.3%、「父はいま仕事をしていない」0.4%、「父はいない」4.7%となっている。この学校区は、かつての農村地域であったところが、新興住宅として急速に都市化してきたところである。農林業は、造園業を主体としているものが多い。父親の職業の多くは、雇用労働者になっているのである。

表（0-4） 母の仕事 百分比

専業主婦	内 職	自営業	パート	パート以外勤めている	母はいない	計
23.8	6.0	12.5	23.4	28.5	1.4	100.0

無回答 4.3

母親の仕事は、「専業主婦」23.8%、「家で内職」6.0%、「家で仕事をしている（自営業）」12.5%、「パートではたらくている」23.4%、「勤めている（パート以外）」28.5%、「母いない」1.4%となっている。中学生の多くの母親は何等かの形で働いているものが多い。専業主婦は23.8%と4分の1弱である。勤めている母親は、53.5%と半数以上を越えている。

子どもが学校から帰ってきたとき、母親が家にいる場合は約5割である。子どもが帰ったとき、「母親がいつもいる家庭」53.2%、「母親ときどきいる家庭」26.9%、「母親いない家庭」18.9%となっている。

父親がいない子どもと母親がいない子どもが本調査では、6.1%存在している。住宅形態は75.2%が「1戸建ての自宅」になっている。「市営・県営の集合住宅」は、6.4%であり、「一般の借

家・アパート」は、10.7%である。子どもは引越し経験をもっているものが多く、64.1%と3分の2の子どもが引越し経験をもっている。その回数は、「1回」43.9%、「2回」24.2%、「3回」13.2%、「4回」7.7%等となっており、多くが1-2回以内の引越しである。この地域はマイホームをもって定住する層であり、これらから移動志向をもっている家庭ではない。

1. 生徒は、自分が先生から信用されていると思っているか

学校の先生が、自分のことを信用してくれないと訴える生徒は少なくない。先生が生徒を信用しているかということは、中学生にとって、大きな関心がある。しかし、教師にとって、生徒を信用する以前に、「指導」という問題に関心が集中する傾向が強い。校則についても生徒を信用するよりも「指導」することに力点が最初からおかれがちである。

このことは、結果として、先生は、生徒を信用していないのではないかという疑いの気持ちや先生はよくわからないという気持ちを生徒の側に働かせる背景になる。

アンケートで、「先生はあなたのことを信用していると思いますか」という問いで、「ほとんど信用している」と答えた生徒は8%であり、「だいたい信用している」25.3%と先生が自分のことを信用していると思っている生徒は少数にすぎない。とくに、「ほとんど信用している」と答えた生徒が10人に1人にも満たないのである。

「学校に行きたくないと思っている」生徒は、「教師に信用されていない」と思うのが高い比率になっている。「学校に行きたくないときがよくある」生徒は、「自分のことを教師は信用してくれていない」と思う比率が高く、45.2%の生徒が「先生は自分のことをあまり信用していない」と答えている。「ほとんど信用している」と「だいたい信用している」をあわせても19.4%と2割たらずの信用度である。他はわからないという回答で、約3分の1を占めている。

校則問題で納得できない生徒は、「先生は自分のことを信用していない」と思う生徒の比率を高

表(1) 先生はあなたのことを信用していると思いますか

百分比

		無 回 答	ほ と ん ど 信用している	だ い た い 信用している	あまり信用 していない	わからない	計
全 体		2.3	8.0	25.3	20.8	43.6	100.0
男	男 子	1.6	9.8	26.4	21.3	40.9	100.0
女	女 子	2.2	6.1	24.3	20.4	47.0	100.0
学校に行きたくない	よくある	0.0	6.5	12.9	45.2	35.5	100.0 (13)
	時々ある	1.5	6.1	23.7	28.3	40.4	100.0 (198)
	あまりない	1.6	9.3	29.0	12.5	47.6	100.0 (248)
校則納得できないこと	たくさんある	0.8	8.5	22.0	33.9	34.7	100.0 (118)
	少しある	0.6	5.9	25.4	18.9	49.1	100.0 (169)
	あまりない	0.0	11.8	34.1	12.9	41.2	100.0 (85)
	まったくない	5.9	23.5	41.2	23.5	5.9	100.0 (17)
	わからない	1.3	3.8	21.8	17.9	55.1	100.0 (78)
授業についていけないか	ついていける	0.8	18.0	29.3	18.0	33.8	100.0 (133)
	だいたいついていける	0.0	5.9	29.9	18.1	46.1	100.0 (204)
	ついていけないとき時々ある	0.0	1.7	18.5	26.1	53.8	100.0 (119)
	まったくついていけない	0.0	0.0	0.0	50.0	50.0	100.0 (12)
家で勉強時間	ほとんどしない	4.9	9.8	14.6	39.0	31.7	100.0 (41)
	1時間以下	0.0	6.9	20.7	31.0	41.4	100.0 (58)
	1時間から2時間	0.0	6.4	24.1	21.7	47.8	100.0 (203)
	2時間から3時間	0.0	7.6	34.1	12.9	45.5	100.0 (132)
	3時間から4時間	2.9	17.1	22.9	14.3	42.9	100.0 (35)

計の()内の数字は、その項目の回答した生徒数

くしている。「校則問題で納得できないことがたくさんある」生徒は、「自分のことをあまり先生は信用していない」と思う生徒の比率が、33.9%であり、「わからない」と答えた生徒が34.7%である。これに対して、校則問題について、「納得できないことは全くない」と現状の校則に肯定的な生徒は、「先生は自分のことをほとんど信用している」と思う生徒の比率は、23.5%、「先生は自分のことをだいたい信用している」と思う生徒の比率は41.2%と「先生は自分のことを信用している」と思っている生徒の比率を高くしている。つまり、校則の現状について批判的な生徒は、「先生は自分のことを信用していない」と思い、逆に現在の校則に肯定している生徒は「先生から自分は信用されている」と思っているのである。

授業についていけない生徒も「先生は自分のことを信用していない」と思っている比率を高くしている。「授業にまったくついていけない」と答えた生徒は、12名いたが、この生徒の半数が「先生は自分のことを信用していない」と答え、あとの半数は「わからない」と答え、「先生が自分のことを信用している」ことがあると答えた生徒は全くみられなかったのである。

「授業についていけないときがときどきある」と答えた生徒においても「先生が自分のことをあまり信用していない」と思っている生徒の比率を高くしている。ここでも「ほとんど先生は自分のことを信用している」と答えた生徒は1.7%にすぎない。半数以上の多くの生徒はわからないと答えているのである。

ところで、家で勉強時間をほとんどしない生徒は、「先生から信用されていない」と思っている比率が高い。つまり、勉強しない生徒は、「先生から信用されていない」と思っているのである。勉強しない生徒のうち、「自分はあまり信用されていない」と思っているのは、39%と約4割で、「わからない」と答えた生徒は31.7%である。勉強時間が家で1時間以下の生徒も同様の傾向を示し、「自分のことを先生が信用していない」と思っている生徒は、31.0%である。

これに反して、よく家で勉強する生徒は、「先生は自分のことを信用している」と思っている生

徒の比率が高い。3時間以上勉強している生徒について、「ほとんど信用されている」と思っている生徒は、17.1%であり、「だいたい信用されている」と思っている生徒は、22.9%である。また、あまり信用されていないと思っている生徒は、14.3%と少なくなっている。

全然勉強しない生徒のうち、「自分が信用されていない」と思っているのが、4割であるのと比較すると、その差が25%ともあり、明かに「先生に信用されていない」と思うのは、勉強をしている生徒としていない生徒と大きく異なっている。

「自分が先生に信用されていない」と思う生徒は、全体で約2割であったが、学校に行きたくない生徒は約5割弱、校則に納得できないことがたくさんある生徒は約3分の1、授業に全くついていけない生徒は5割、家で勉強全くしない生徒は約4割となっている。登校拒否の意識傾向、校則の疑問意識、学校の授業についていけない生徒は、「先生に信用されていない」と思う生徒が多くいるのである。

ところで、先生ばかりでなく、親との信用関係はどのようになっているのであろうか。「自分は母親から信用されているのであろうか」ということでの質問では、「信用している」34.5%、「大体信用している」37.6%、「あまり信用していない」10.7%、「わからない」15.8%となっている。母親から「信用されていない」と思う中学生が約1割も存在し、さらに、母親から信用されているかどうかかわからないと答える子どもが、6分の1ということである。また、母親から信用されてると思う子どもは、約3分の1にすぎないのである。母親から「自分が信用されていない」と思うのは、女生徒の方が高い比率になっている。女生徒の場合は、「母親から信用されていない」と思うものは、13.0%であり、男子の8.6%よりも高い比率になっている。「母親から信用されているかどうかかわからない」ということも、女子のほうが18.3%を占めて、男子の13.7%よりも高く現れている。

つまり、女生徒の場合の方が同性ということであるが、信用関係が低く現れているのである。「自分が父親から信用されているか」という質問

表（２） お母さんはあなたのことを信用していると思いますか

百分比

	無 回 答	信用している	だ い た い 信用している	あ ま り 信用していない	わからない	計
全 体	1.4	34.5	37.6	10.7	15.8	100.0
男 子	0.8	33.7	43.1	8.6	13.7	100.0
女 子	1.3	35.7	31.7	13.0	18.3	100.0

表（３） お父さんはあなたのことを信用していると思いますか

百分比

	無 回 答	信用している	だ い た い 信用している	あ ま り 信用していない	わからない	計
全 体	3.5	31.6	38.6	8.6	17.7	100.0
男 子	3.5	29.8	43.1	8.6	14.9	100.0
女 子	2.6	33.9	33.9	8.7	20.9	100.0

は、26.1%と男子の21.4%と比べて高い比率にな
では、母親の場合と同じ傾向を示しているが、し
かし、「自分は父親から信用されていない」と思
う生徒の男女差はない。母親依存の子育てのこ
がいわれるが、思春期の中学生の子ども側からみ
れば、母親も父親も子どもが信用されていると思
う傾向は同じ状況なのである。

思春期として、大人への疑問、自分が身近の人
に信用されているかどうかという不安はみられる
が、その傾向は、教師の方に強く現われている。
母親にたいしても、父親にたいしても、「自分が
信用されていない」また、「信用されているかど
うかわからない」という子どもがいることをどの
ように理解していくか。

ここには、思春期の大人への疑問・不安と同時
に親からの自立の過程の精神的動揺と不安をも含
まれているのである。教師の不信は、教師自身の
管理教育、偏差値・差別教育等の問題性が強くあ
ることは否定できないが、しかし、同時に、思春
期としての独自の精神構造のなかでの教師との信
用関係があることを見落としてはならない。

ところで、子ども達にとって、楽しいと思うと
きは、どのようなことをしているときであろう
か。この問題についても自由に記述してもらった
が、回答者は、79.1%と約8割と高率であった。

楽しいときの内容では、男女差が大きくでてい
る。男子では、「友人と遊んでいるとき」31.7%、
「テレビ・ラジオ等」19.8%、「寝ているとき・
ぼーとしているとき」13.9%、「部活動を
しているとき」8.9%、等となっている。

女子では、「友人とおしゃべりしているとき」
25.7%、「友人と遊んでいるとき」19.1%、「テ
レビ・ラジオ等」14.2%、「家族との団らん」
10.9%、「部活動をしているとき」9.8%となっ
ている。子ども達にとって、「友達と遊んでいる
とき」や「おしゃべりしているとき」が、楽しい
ときとするのが多いが、男子のなかでは、「寝て
いるとき・ぼーとしているとき」という記述が13
%もあり、また、女子では、家族との団らんが1
割程の割合を占めているのである。

2. 嫌いな先生・好きな先生のタイプ

嫌いな先生は、どんな先生であるかというこ
とで、生徒に自由記述をしてもらったが、78.2%と
約8割が記述した。嫌いな先生のタイプの自由記
述についての男女差は、女子の方が先生の嫌いな
面を積極的に書いている。男子が71.4%で、女子
が86.5%である。嫌いな先生について自由記述か
ら類型したが、すぐ怒鳴る先生が嫌いな先生とす
る生徒が最も比率が高く、23.9%と4人に1人の

表（４） あなたが楽しいと感じるときは何をしているときですか

百分比

	スポーツを していると	部 活 動 しているとき	友 人 と おしゃべり	ラジオ・ラジ オ・音 楽	家族との 団 ら ん	寝ている と き	遊 ん で いるとき	そ の 他	計
全 体	4.9	9.4	15.1	17.1	6.8	8.6	25.7	12.5	100.0
男 子	5.9	8.9	5.4	19.8	3.0	13.9	31.7	11.4	100.0
女 子	3.8	9.8	25.7	14.2	10.9	2.7	19.1	13.7	100.0

自由記述してもらったものを整理して項目したものである

無回答 全体20.9 男子20.8 女子20.4 無回答を除き百分比

割合の生徒が書いている。なかでも女子の場合は、26.1%と男子の21.4%と比べて高い比率になっている。

次は、しつこい・いやみを言う教師が嫌い」と記述する生徒が、16%であり、この場合は、男子生徒が19.2%と女子の13.1%に比べて高い割合になっている。男子にとっては、しつこい・いやみを言う先生が怒鳴る先生と同じような割合で嫌いなタイプの先生になっている。

いな先生のタイプと同様に女子の回答が高く、86.1%の女生徒が好きな先生のタイプを描いている。

好きな先生について、「やさしい」と記述している生徒は、28.8%と最も高い。この回答の男女の差は、女子31.1%、男子27.7%と女子に「やさしい先生」を求める意見が強く現れているが、大きな差はない。

次には、面白い・明るい先生が好きなタイプの

表（５） 嫌いな先生はどんな先生ですか

百分比

	ひいきを す る	生 徒 を 理解しない	やつあたり す る	しつこい い や み	すぐ怒る	暴力をふる こ わ い	面白くない ま じ め	やかましい うるさい	そ の 他	計
合 計	7.6	9.4	2.6	16.0	23.9	12.1	5.5	11.3	11.5	100.0
男 子	3.3	6.0	2.2	19.2	21.4	13.2	8.2	13.2	13.2	100.0
女 子	11.6	12.6	3.0	13.1	26.1	11.1	3.0	9.5	10.1	100.0

自由記述してもらったものを整理して項目したものである

無回答 全体21.8 男子28.6 女子13.5

無回答を除いて百分比

その他に、嫌いな先生のタイプとして、「暴力を振るう先生」12.1%、「やかましい・うるさい先生」11.3%、「生徒を理解してくれない」9.4%、「ひいきをする」7.6%、「おもしろくない・まじめ」5.5%、「やつあたりをする」2.6%等となっている。

好きな先生は、どんな先生かということでの自由記述でも79.2%と8割近い生徒が書いているように、先生に対する関心をも強いものがある。嫌

先生になっている。面白い・明るい先生が好きな先生という男女差の意見は、男子25%、女子21.1%が書いている。生徒を理解してくれる先生が好きな先生と書いているのは、女子に高く、24.1%と約4分の1の女生徒が書いている。生徒を理解してくれる先生という記述の男子の場合は、9.6%と女子に比べると低い比率になっている。

生徒を理解してくれるということは、男女差に大きな開きがでている。嫌いな先生のタイプにお

表(6) 好きな先生はどんな先生ですか

百分比

	教 え 方 上	やさしい	面 白 い	生徒を理解 してくれる	親身になっ てくれる	けじめがあ る	ひいきをし ない	そ の 他	計
全 体	9.4	28.8	22.6	16.6	6.0	7.8	2.1	6.8	100.0
男 子	9.0	27.7	25.0	9.6	5.9	9.0	1.6	11.7	100.0
女 子	10.0	31.1	21.1	24.2	6.3	6.8	2.6	2.1	100.0

自由記述してもらったものを整理して項目したものである

無回答 全体20.8 男子26.3 女子13.9

無回答を除いて百分比

いても「生徒を理解してくれない」ということは男女差があった。女子は12.6%の生徒があげ、男子は6%であった。中学生にとって、好きな先生のタイプは、「やさしい先生」「面白い・明るい先生」「生徒を理解してくれる先生」ということが高い比率になっている。

この傾向は、とくに女子に強く現れている。以上の他に好きな先生の内容は、「教え方が上手」9.4%「けじめがある」7.8%、「親身になってくれる」6%、「ひいきをしない」2.1%となっている。

ところで、学校の先生について日頃自由に思っていることを生徒に書いてもらったが、記述した生徒は、31.8%と3分の1であったが、その内容は、「しつこい・うるさい」27.1%、「ひいきをする」7.1%、「生徒指導がきびしい」7.1%、「やつあたりする」5.8%、「教え方がよくない」5.8%等と教師に対する問題点をのべている。調査にあたって、教師にたいして積極的なプラスの意見を期待したのであったが、生徒にとっての教師の日頃のイメージは、問題点しかでてこなかったのである。

学校の雰囲気について日頃思っていることを自由記述してもらったが、ここでも前記の質問と同様に自由記述した生徒は少なかった。記述者は、23.4%と4分の1にすぎないが、その内容は、「けじめがない・騒がしい」21.1%、「先輩・後輩の関係に不満」13.2%、「この学校は暗い・もっと明るい状況に」11.4%、「校則が厳しい・もっと自由な雰囲気がほしい」10.5%、「問題行動の生徒がいて迷惑」6.1%、「この学校の先生が

よくない」2.6%等となっている。

生徒のなかには、けじめがない・騒がしい、先輩・後輩の関係が厳しい、生徒の問題行動の人がいて迷惑という自分達の生徒の問題に目をむける意見と校則が厳しい、この学校の先生はよくないということで、教師や学校の問題に目をむける意見とに分かれている。

自分の学校にたいして、友達同士のけじめがない・騒がしいというような問題点の指摘が多かったが、それでは、友達関係についての嫌い、好きの人間像について自由記述で書いてもらった。

嫌いな友達像ということで、書いているのは、78.5%と約8割である。この割合は、教師と同じであったが、その具体的内容は、「わがまま・自己中心的な人」という記述が、32.1%で全体の3分の1を占めている。

この回答は男女差が大きく、女子45.1%、男子18.0%と女生徒が「わがまま・自己中心的な人が嫌い」としている。さらに、嫌いな友達像で高い比率は、「意地悪・暴力的」14.1%（男子）、「人の悪口を言う・陰口を言う」11.5%（男子）、12.2%（女子）、「根暗な人」10.4%（男子）となっている。この他には、「気があわない人」5.0%、「短気な人」4.2%、「いばるひと」7.4%、「嘘をつく人」4.2%、「いいかげんな人」2.9%、「身体の原因で」2.4%ということになっている。

これらの回答のなかでは、身体的な理由を嫌いな友達にあげる内容にみられるように、生徒の一部に人権感覚の問題もみられるが、全体的には、相手の立場を考えて、友達の人間関係をつくって

表（７） 嫌いな友人のタイプ

百分比

	気が合 わない	わがまま	短 気	いばり ちらす	意地悪 暴力的	人の悪口を 陰口をいう	嘘をつく 約束を破 る	根暗な人	いいかげ んな人	身体的 理由	その他	計
全 体	5.0	32.1	4.2	7.4	11.1	11.8	4.2	6.1	2.9	2.4	12.9	100.0
男 子	8.2	18.0	4.4	6.0	14.2	11.5	2.7	10.4	2.2	3.8	18.6	100.0
女 子	2.0	45.2	4.1	8.6	8.1	12.2	5.6	2.0	3.6	1.0	7.6	100.0

自由記述したものを整理して項目したものである

無回答 全体21.5 男子27.7 女子14.0

無回答を除いて百分比

表（８） 好きなタイプの友人

百分比

	気が合 う	やさしい 思いやりがある	明 る い 面 白 い	信 頼 可 能 秘密を守る	相談にの ってくれる 頼 れ る	そ の 他	計
全 体	24.7	24.4	17.5	12.3	15.7	5.4	100.0
男 子	31.7	20.1	19.6	11.1	9.0	8.5	100.0
女 子	16.0	28.5	15.5	13.5	22.0	2.5	100.0

自由記述したものを整理して項目したものである

無回答 全体20.1% 男子25.9% 女子13.0

無回答を除いて百分比

いこうという思春期の子ども達の自立の意識過程をみることができる。

好きな友達像では、「気が合う人」31.7%（男子）、16.0%（女子）、「やさしい・おもいやりがある」20.1%（男子）、28.5%（女子）、「明るい、面白い、元気」19.6%（男子）、15.5%（女子）、「信頼できる・秘密を守る」11.1%（男子）、13.5%（女子）、「相談にのってくれる・頼れる」9.0%（男子）、22.0%（女子）等となっている。

女子と男子の好きな友達像の開きは、「気が合う人」に男子が多く、女子に「やさしい・おもいやりがある人」「相談にのってくれる・頼れる人」が多く記述している。

好きな教師と好きな友達と共通している人間像は、「やさしい・おもいやりのある人」「明るい・面白い人」「親身になってくれる・理解してくれる・相談にのってくれる・頼れる」ということである。

中学生が好きな人間像は、教師であっても友達であっても共通するものがあることを注目する必要がある。つまり、これはある意味では、現代中学生が求めている人間像でもあるからである。

自分の住んでいる地域が好きかということでは、67.5%の子どもが好きであると答えている。自分の住んでいる地域が嫌いであると答えている子どもは、25.5%と4分の1である。また、全体の半数以上の子どもが自分の好きな地域の理由をのべている。

その理由は、男女差があるので男子からのべると「なんとなく」23.0%、「明るい」21.4%、「生活が便利」16.7%、「友達がたくさんいる」11.1%、「まわりが親切」11.1%、等となっている。

一方、女子の場合は、「まわりが親切」28.9%、「なんとなく」26.4%、「友達がたくさんいる」16.5%等となっている。

なんとなくと答えるのは男女との共通に高い比

表（９） 自分の住んでいる地域の好きな理由

百分比

	学校に近い	周りが親切	友 達 が たくさんいる	便 利	明 る い	なんとなく	そ の 他	計
全 体	7.3	19.8	13.8	11.3	14.2	24.7	8.9	100.0
男 子	8.7	11.1	11.1	16.7	21.4	23.0	7.9	100.0
女 子	5.8	28.9	16.5	5.8	6.6	26.4	9.9	100.0

自由記述したものを整理して項目したものである

無回答 全体49.3 男子50.6 女子47.4

無回答を除いて百分比

表（10） 親・先生以外からしかられたことがありますか

百分比

	無 回 答	あ る	な い	計
全 体	3.7	61.6	34.7	100.0
男 子	4.3	70.2	25.5	100.0
女 子	2.2	52.6	45.2	100.0

表（11） 自分が悪いと思った時、すぐあやまるか

	無 回 答	あ や ま る	だ い た い あ や ま る	時 々 し か あ や ま ら な い	あ や ま ら な い	計
全 体	3.1	27.4	53.1	10.3	6.2	100.0
男 子	3.1	27.1	49.4	11.8	8.6	100.0
女 子	2.2	27.8	57.4	8.7	3.5	100.0

率になっていたが、男子は明るい地域であることを強調し、女子は地域の人が親切である。

子ども達が「日頃、学校の教師や親以外からしかられることがあるか」ということでは、61.6%の子どもがしかられていると答えている。男子では、70.2%がしかられているとしているが、女子は、52.2%と低くなる。地域の大人達は男子にはよくしかっているようである。しかし、女子でも半数以上の子どもがしかられているとしている。地域としての共通の大人の子どもへの子育ての責任環境は失われていないようである。

子どもも「自分が悪いと思ったとき」は、「すぐにあやまる」子どもがこの地域では、多いよう

である。自分が悪いと思ったときはすぐあやまるかという質問では、「あやまる」27.4%、「大体あやまる」53.1%となっている。あやまらない子どもは「ときどきしかあやまらない」10.3%、「あやまらない」6.2%となっている。

遊んでいるとき自分の思いどおりにならないときどうなるかという質問では、「気がすすまなく遊ばなくなる」7.0%、「いやな気分だが遊ばなくなる」47.6%、「全く気にならない」36.8%ということで、友人関係においても自分の思いどおりに意志をとおしておらず、友人との協調関係に自己をコントロールしているのである。

嫌いな先生ということでは、積極的に自己の意

表 (12) 友だちと遊ぶ時、自分の思い通りにならないと気がすまないですか

百分比

	無 回 答	気がすまなくて 遊ばなくなる	いやな気分だが がまんして遊ぶ	ま っ た く 気にならない	計
全 体	8.6	7.0	47.6	36.8	100.0
男 子	9.4	9.0	45.1	36.5	100.0
女 子	7.0	4.8	50.9	37.4	100.0

志を記述した子ども達であり、学校に対して校則問題等では、強い自己主張をする子ども達であるが、友人関係においては、協調関係での自己コントロールを働かせているのである。また、地域の大人達にたいしても自分が悪いときは、すぐにあやまるという意志をもっている。子ども達は、大人一般ということよりも、教師・学校に対しては、とくに、厳しい見方をしているのである。

3. 学校の授業と塾

塾にっている生徒で、学校と塾ではどちらが勉強になるかという質問において、学校と答えた生徒は、18.3%にすぎない。そして、塾の方が勉強になると答えた生徒は、49.6%と過半数近くになっている。わからないと答えた生徒は、31.3%である。塾にっている生徒は、学校よりも塾の方が学習期待を強くもっているのである。塾に通っている生徒は必ずしも成績が優れているものばかりでなく、授業についていけない子どもたちも含まれているのである。

塾に通う生徒で「授業についていけないときがときどきある」と答えた生徒が約2割を占め、「全くついていけない」と答えた生徒が2%いるのであった。塾に行くのはどのような理由からであるかということで、自由に記述をしてもらったが、無回答者は11%にすぎず、多くの生徒は、その理由を書いている。最も多い理由は「成績を上

げるため」ということで、44.7%である。「家で勉強しない」7.7%、「親にいわれたので」4.9%、「塾の勉強は将来のためになる」7.7%、「塾はたのしい」2.8%、「友達にさそわれたので」2%となっている。

塾に通う理由の多くは、学校の成績をあげるためということで、学校では成績をあげるためにあまり役にたっていないと思う生徒は多いのである。この成績をあげるためと生徒の塾通いの理由が単に受験戦争のなかでの成績向上という面ばかりでなく、学校の授業、成績評価についていけない子どもたちのいわゆる「おちこぼれ」克服の面から塾にかよっている生徒がいることも重視しなければならない。

学習塾の方が勉強になると答えた生徒が、学校の授業のことにどのような不満をもっているのか、自由記述をしてもらったが、回答したのは、36.8%と約3分の1であった。その不満の内容は、「教え方が悪い」28.3%、「授業が面白くない」17.4%、「授業がわからない」10.9%、「平等にあつかってほしい」8.7%等となっている。また「授業についていけないときがときどきあり」と答えた生徒において、授業についての不満の回答を具体的に記述したのは、48.7%と半数近くである。

授業についていけない生徒の授業の不満の記述が32.3%と比較すると授業についていけない生徒の

表 (13) 塾と学校とどちらが勉強になるか

百分比

無 回 答	学 校	学 習 塾	どちらとも いえない	計
0.8	18.3	49.6	31.3	100.0

表 (14) 塾に行っている生徒のなかで学校の授業についていけるか

百分比

無 回 答	ついていける	だ い た い ついていける	ついていけな いときがとき ど き 有	まったくつ いていけない	そ の 他	計
1.2	32.9	42.7	20.3	2.0	0.8	100.0

表 (15) 塾に行く理由

百分比

無 回 答	成 績 を 上 げ る	将来のため	親 に いわれた	友 達 に さそわれた	塾が楽し そうなので	家で勉強 しないので	そ の 他	計
11.0	44.7	7.7	4.9	2.0	2.8	7.7	19.1	100.0

自由記述を整理して項目したものである

表 (16) 学習塾の方が勉強になると答えた生徒の授業の不満内容

百分比

	教え方が 悪 い	授 業 が おもしろ く な い	授 業 が わからない	平等にあつ かってほしい	先 生 が 厳 し い	速度が 早 い	周 り が うるさい	そ の 他	計
塾の方が 勉強になる 生 徒 (125名)	28.3	17.4	10.9	8.7	2.4	0.8	1.6	8.0	100.0

表 (17) 授業についていけないときがある生徒の授業内容の不満

百分比

	教え方が 悪 い	授 業 が おもしろ く な い	授 業 が わからない	平等にあつ かってほし い	先 生 が 厳 し い	速 度 が 早 い	周 り が うるさい	そ の 他	計
授業ときど きついてい けない生徒 (119名)	11.8	4.2	4.2	5.0	1.6	13.4	0.8	7.6	100.0

表 (18) 塾にしていることと家での勉強時間

百分比

	無 回 答	ほとん ど し な い	1 時 間 以 下	1 時 間 ～ 2 時 間	2 時 間 ～ 3 時 間	3 時 間 以 上	計
塾にいて る	1.2	10.6	14.2	38.2	26.8	8.9	100.0
塾にいて い な い	1.3	6.1	10.0	47.0	28.3	7.4	100.0
全 体	2.9	8.2	11.9	41.8	27.2	8.0	100.0

不満の比率が高くあらわれているのである。授業についていけない生徒の不満は、「速度が早すぎる」27.6%、「教え方が悪い」24.1%、「平等に扱ってくれない」10.3%、「授業がわからない」8.6%、「授業がおもしろくない」8.6%等となっている。

学習塾の方が学校より勉強になると答えた生徒は、学校の授業の教え方についての不満を高くもっているが、学校の授業がわからないことがある生徒は、授業の教え方と同時に授業の速度が早いことに高い不満を示している。

塾を週5回以上通う生徒で「全く家で勉強しない」比率は、16.9%であり、塾に通っていない生徒で、家で全く勉強しない比率は、5.9%となっており、塾に通う回数が多い子どもの方が「家で全く勉強しない」子どもの比率を高くしている。家での勉強時間が1時間以下の場合も塾に通っていない生徒の方が、比率を低くしている。1時間しか勉強しない比率は、「塾に通っている生徒」13.3%、「塾に通っていない生徒」9.6%となっている。また、2時間以上3時間の家での勉強時間になると、「塾に通っていない生徒」27.2%であり、「塾にいつている生徒」19.3%となっている。これらの数値より、塾に通う生徒は相対的に家で勉強する時間を低くしているのである。

つまり、これらのことから、学校よりも塾依存の学習になっている子どもが多くなっているのであることがわかる。

ま と め

本稿では、鹿児島市新興団地における中学校生徒の教師・学校に対する意識を3つの側面から明らかにしてきた。第1は、生徒が教師から信用されていると思っているのかということの問題にした。校則問題で納得できない生徒、授業についていけない生徒、家で勉強しない生徒、登校拒否的意識傾向の生徒は、教師から信用されていないと思う生徒の比率が高くでいたのである。全体的に先生が自分のことを「信用している」と思っている生徒は3分の1と僅かであった。また、親との信用関係においても教師ほどではないが、「信用されていない」「わからない」と答える子ども

が少なくない比率でいたのである。この問題は教師をも含めて、身近な大人にたいする疑問・不安と同時に中学生の自立課程の精神的動揺・不安があるのであった。

第2には、嫌いな教師、好きな教師のタイプから生徒の求める教師像を明かにした。教師の人間像に対する生徒の関心は強いものがあつた。嫌いな教師のタイプは、すぐ怒鳴る教師、しつこい、いやみを言う教師、暴力をふるう教師等ということであった。また、好きな教師像は、やさしい教師、面白い・明るい教師、生徒を理解してくれる教師ということであった。生徒の教師像に対する要求は、現代中学生の求める人間像をも含まれるのであつた。生徒が求める好きな友達像もやさしい、おもしろい人、面白い・明るいことが高く出たのである。

第3は、学校と塾との関係を明かにしたが、子どもの意識のなかに塾の方が勉強になるということで、「学力形成」を塾に求める傾向がでているのであつた。塾に通う生徒は、学校の教師について、「教え方が悪い」「授業が面白くない」と授業に不満をもつものが多くいたのである。

以上、3つの側面から中学校生徒の教師・学校の意識を明らかにしてきたが、子ども達のなかに脱学校の意識状況や教師に対する深い疑問と不信が生じていたのであつた。